

| | | | | | |
|----------|--|----|--------|----|----|
| 氏名 | 北島義典 | 部署 | 健康開発学科 | 職名 | 教授 |
| 研究分野 | 運動疫学 公衆衛生学 疫学 健康教育 | | | | |
| 学位 | 修士（体育） | | | | |
| 学歴 | 1987年 中京大学体育学部体育学科、1991年 中京大学大学院体育学研究科修士課程、1993年 中京大学大学院体育学研究科博士課程 | | | | |
| 経歴 | 1994年(財)明治安田厚生事業団 体力医学研究所研究員、2005年同研究所副主任研究員、2011年同財団新宿健診センター学術室 室長(兼務)、2012年公立大学法人 埼玉県立大学 保健医療福祉学部 健康開発学科 健康行動科学専攻 准教授、同大学院 保健医療福祉学研究科 博士課程前期 健康福祉科学専修 准教授、2014年 同大学院保健医療福祉学研究科 博士課程後期 准教授、2020年、同大学保健医療福祉学部 健康開発学科 健康行動科学専攻 教授、同大学院 保健医療福祉学研究科 博士前期課程 健康福祉科学専修 教授、同大学院 保健医療福祉学研究科 博士後期課程教授 | | | | |
| 所属学会（役職） | 日本運動疫学会（理事→監事）、日本健康教育学会（理事）、日本体力医学会（評議員）、American college of sports medicine、日本公衆衛生学会、日本疫学会、日本体育学会、日本運動生理学会、日本栄養改善学会、日本健康学会、日本学校保健学会、日本ストレス学会、日本母性衛生学会 | | | | |

【2021年度実績】

| | | | | | | | |
|--------------|---|-----|------|----------------------|--|---|---------|
| 1. 研究業績 | | | | | | | |
| (1) 著作 | | | | | | | |
| | 著作の名称 | 単・共 | ISBN | 発行所、全ページ数 | 著者、編者名 | 発行等年月 | |
| 1 | 該当なし | | | | | | |
| (2) 論文 | | | | | | | |
| | 論文の名称 | 単・共 | 査読 | IF対象誌 | 雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ | 著者、編者名 | 発表等年月 |
| 1 | 地域在住の自立高齢者に対する膝痛改善教室の医療費に与える効果の検証 | 共著 | あり | | 日本公衆衛生雑誌、68(5)、331-338 | 山田卓也、福田吉治、佐藤慎一郎、丸尾 和司、中村睦美、根本裕太、武田 典子、澤田 亨、 北島義典 、荒尾 孝 | 2021.5 |
| 2 | Bidirectional relationship between insomnia and frailty in older adults: A 2-year longitudinal study. | 共著 | あり | ○ | Arch Gerontol Geriatr. 97:104519. doi: 10.1016/j.archger.2021.104519. Epub 2021 Sep 11. PMID: 34564037 | Nemoto Y, Sato S, Kitabatake Y , Nakamura M, Takeda N, Maruo K, Arao T. | 2021.11 |
| 3 | Physical activity and/or sedentary behaviour and the development of functional disability in community dwelling older adults in Tsuru, Japan: a prospective cohort study (the Tsuru Longitudinal Study) | 共著 | あり | | BMJ Open: e056642. doi:10.1136/bmjopen-2021-056642 | Sato S, Takeda N, Yamada T, Nakamura M, Nemoto Y, Maruo K, Fukuda Y, Sawada S, Kitabatake Y , Arao T | 2022. 3 |
| (3) 学会発表 | | | | | | | |
| | 学会発表の演題 | 単・共 | | 学会名、開催都市 | 発表者（発表者は○印） | 発表等年月 | |
| 1 | 労働者における疼痛の破局的思考や疼痛の自己効力感とプレゼンティズムの関係 | 共同 | | 第94回日本産業衛生学会、松本市 | 岸本俊樹、 北島義典 、田口孝行 | 2021.5 | |
| (4) その他 | | | | | | | |
| | 名称 | 単・共 | | 発表場所等 | 発表者（発表者は○印） | 発表等年月 | |
| 1 | 該当なし | | | | | | |
| 2. 競争的資金等の研究 | | | | | | | |
| | 競争的資金等の名称 | | | 研究名 | 研究代表者・研究分担者の別 | 研究期間 | |
| 1 | 文部科学省 基盤研究 (C) | | | 高齢者の不眠に対する認知行動療法の最適化 | 研究分担者 | 2019.4-2023.3 | |

| 3. 教育業績 | | | | |
|---------|-------------------|-------|-----|---|
| (1) 講義 | | | | |
| | 講義の名称 | 科目責任者 | コマ数 | 概要（教育内容・方法等において工夫した点） |
| 1 | 学部：健康科学1（健康教養） | ○ | 15 | 健康科学や健康文化論を学ぶ際に必要な、基本的な知識の習得を目的とした（科目を健康教養として位置付ける）。以下3点を中心に、健康に関する専門的な知識の習得を目指した。 1. 健康の定義を理解し、健康観について考察を深める。 2. 疾病予防の知識を養う。 3. 正しい健康情報の取得と伝え方を学ぶ。 特に2020年度はコロナウィルスの感染拡大の話題を盛り込んで予防行動の変容の困難さや介入方法の工夫について学べるように説明をした。 |
| 2 | 学部：健康科学2（健康運動論） | ○ | 15 | 身体的、精神的および社会的健康に対する身体活動の効用についての理解を深めることを目的とした。そのために以下の3点を重視して授業を展開した。1. 身体活動の定義を理解し、身体活動が健康づくりのための手段のひとつであることを理解する。2. 非感染性疾患予防のための身体活動の効用を科学的根拠に基づいて理解する。3. ライスステージ別の身体活動ガイドラインを理解する。特に2020年度はコロナウィルスの感染拡大の話題を盛り込んで不活動の健康に対する影響について授業を進めた。特に運動疫学会から発信される情報をもとに最新の情報を伝えた。 |
| 3 | 学部：卒業研究 | | 30 | 例年、各学生が仮説を立て、それを実証するためにデータを収集し、そのデータを解析した結果をもとに考察を深めることを実施してきた。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染拡大のためデータ収集が困難のため、既存データをを用いて解析を実施して各学生のテーマについて理解を深めた。 |
| 4 | 学部：運動疫学 | ○ | 15 | 運動（身体活動）の疾患予防や健康づくりに対する有効性について疫学研究から学ぶ。授業を通じて質の高いエビデンスを選択する能力を高め、質の高いエビデンスを人に伝える方法を習得する。そのために、一定のキーワードを学生に伝え、文献検索を実施させ、選択能力を確認させた。また、学生には選んだ文献を熟読させて、それを発表させて、学生全員で吟味した。 |
| 5 | 学部：健康行動科学入門1 | | 1 | 私のこれまでの研究を紹介し、研究の面白さを伝えて、エビデンスづくりについて理解を深めた。 |
| 6 | 学部：健康行動科学入門2 | | 1 | 身体活動の健康に対する効用に関するエビデンスを用いた政策づくりについて、国の指針やこれまでの私の研究を用いて説明をし理解を深めた。 |
| 7 | 大学院：健康長寿論（博士後期課程） | ○ | 15 | 高齢化の進むわが国においては、生活習慣病や精神疾患等の非感染症、介護が重要な問題となっているが、これらはいずれも予防が重要である。本講義では、健康長寿の実現に向けて、これらの疾患の危険因子の探索方法や予防プログラムの開発・評価方法について解説し、主として疫学的な観点から、長寿社会における健康に資する研究の立案を行える能力の獲得を目指した。工夫としてはこれまでの私自身の研究を基本に現行の介護予防や包括支援システムについて理解を深めた。 |
| 8 | 大学院：健康科学実証研究法特論 | | 10 | 健康の維持増進および疾病予防は、個人の健康行動と行政等による集団に対する保健医療施策に影響されるが、健康科学におけるすべての研究成果は、最終的にはヒトにおいて、統計的な手法に依拠して実証的に検討されなければならない。そこで本講義においては、健康科学における実証研究を行う上で必要となるデータ収集や研究デザインに関わる疫学、社会調査の方法論について解説するとともに、研究の中での使用例を解説する。また、ヒトを対象とした研究であるがゆえに避けることのできないバイアスの制御方法について、多変量解析を含めて解説するとともに、統計解析ソフトを用いた、実践的な演習も実施する。 |

| | | | | |
|------------------------|-----------------------|-----------------|-----------------------------|---|
| 9 | 大学院：加齢神経運動機能論（博士後期課程） | | 3 | 加齢や不活動による神経・運動機能低下の予防について運動生理学、スポーツ科学などの新たな知見と研究手法を用いて説明した。また、以前に我々が開発した高齢者用の身体機能テスト（生活体力測定）を用いた研究を紹介して地域で実施されている介護予防について理解深めた。 |
| (2) 演習 | | | | |
| | 演習の名称 | 科目責任者 | コマ数 | 概要（教育内容・方法等において工夫した点） |
| 1 | 学部：健康運動論演習 | ○ | 15 | 健康を評価する主観的、及び客観的指標の特徴を学習し、調査・測定方法の注意点やデータ解析の方法を学ぶ。そのために、実際に履修生を対象に主観的、及び客観的指標を用いて、データを収集し、解析して、結果について先行研究を参考に解釈を深めレポートにまとめさせた。 |
| 2 | 学部：課題別演習Ⅰ・Ⅱ | | 30 | 卒業研究に関する研究計画書の作成方法（研究倫理、エビデンスレベル、統計解析、論文の書き方） |
| 3 | 大学院 健康長寿演習（博士後期課程） | | 15 | 地域での健康づくりに関する、介入方法（プログラム開発）、評価方法、住民と行政との協働の作り方を実例をあげて解説。 |
| (3) 実習 | | | | |
| | 実習の名称 | 科目責任者 | 学外実習：期間 学内実習：コマ数 | 概要（教育内容・方法等において工夫した点） |
| 1 | IPW実習 | | 15 | 本学で学んできたヒューマンケア視点・姿勢に基づき、チームメンバーの専門性と多様性の相互理解を通して、専門的な知識や技術を活用し、リフレクションを行い、チーム形成と協働の実践の方法を身につける。 |
| (4) 論文指導 | | | | |
| | 対象 | 期間 | 主指導・副指導の別及び指導人数 | |
| 1 | 卒業論文 | 2021.4-2022.3 | 主指導 7名 | 副指導 名 |
| 2 | 修士論文 | 2021.4-2022.3 | 主指導（指導教員） 0名 | 副指導（指導補助教員） 1名 |
| 3 | 博士論文 | 2021.4-2022.3 | 主指導（指導教員） 0名 | 副指導（指導補助教員） 6名 |
| (5) その他 | | | | |
| | 名称 | 期間 | 概要（教育内容・方法等において工夫した点） | |
| 1 | 人事委員会 委員 | 2021 | 人事採用審査 | |
| 2 | 大学院修士論文 主査 | 2022.2 | 修士論文審査 | |
| 4. 社会貢献活動 | | | | |
| (1) 講演会、研修会、公開講座等の講師 | | | | |
| | 講演会、研修会、公開講座等の名称 | 主催 | 講演、研修、公開講座等のテーマ | 開催年月 |
| 1 | 健康運動指導士会養成講座 | 公財）健康・体力づくり事業財団 | 体力測定と評価 介護予防に関連する体力測定法とその評価 | 2021年6月,11月 |
| 2 | 越谷市チームー3キロ | 越谷市 | テーマ：減量に効果的な運動は？ | 2021年11月 |
| 3 | 埼玉未来大学 講義 | 埼玉未来大学（川口学園） | 脳力アップ！睡眠の効用 | 2021年5月 |
| (2) 国、自治体、学術団体等における委員等 | | | | |
| | 国、自治体、学術団体等の名称 | 委員等の名称 | 任期 | |
| 1 | 春日部市健康づくり推進審議会 | 委員および会長（議長） | 2020年4月～2021年3月 | |
| 2 | 春日部市高齢者保健福祉計画等推進審議会 | 委員および会長（議長） | 2020年4月～2021年3月 | |
| 3 | 越谷市生涯学習審議会 副会長 | 委員および副会長 | 2021年4月～現在に至る | |
| 4 | 戸田市保健対策推進協議会 | 会長 | 2021年4月～現在に至る | |
| 5 | 武里団地ささえあいの会 | 委員 | 2018年4月～現在に至る | |
| 6 | 都留市セーフコミュニティ | 外傷サーベイランス委員会委員 | 2019年11月～現在に至る | |

| | | | | |
|---------------------------|---|---|--------------------------------|----------|
| 7 | 都留市長寿介護課（都留市と県立大学との共同研究協定） | 都留市研究（地域高齢者の集団的健康づくりの開発とその評価） | 2016年1月～現在に至る | |
| (3) ジャーナリズムでの発言 | | | | |
| | メディア等の名称 | 内容 | 年月 | |
| 1 | 株式会社フロムページ（FROMPAGE） 夢ナビライブ2021 Web in summer 講義ライブ（質疑応答なども含む） | 夢ナビ講義Videoは全国の約2,000校（※2021年1月現在）の高等学校に提供する「夢ナビ講義動画サービス」サイトで公開され、高校生の進路検討のために活用されるもの。夢ナビ講義Videoの視聴をとおりて学問と社会のつながりや社会問題の解決に貢献する研究の存在を知り、高校生自らが大学進学を考える有益な機会となるもの。 テーマ：運動と高齢者の健康との関係を科学する （90分×3本） | 2021年7月 | |
| (4) その他 | | | | |
| | 項目 | 相手方等 | 内容 | 期間 |
| 1 | 該当なし | 日本疫学会編集委員会 | Journal of Epidemiology（英文）の査読 | 2021年9月 |
| 2 | 該当なし | 東洋大学ライフデザイン学部紀要編集委員会 | ライフデザイン学研究の査読 | 2021年11月 |
| 3 | 該当なし | 日本健康教育学会編集委員会 | 日本健康教育学会誌の査読 | 2022年2月 |
| 5. 学内運営 | | | | |
| | 項目 | 内容 | 期間 | |
| 1 | 全学的委員会及びセンター業務等 | 地域産学連携センター副所長 | 2021年4月～現在に至る | |
| 2 | 全学的委員会及びセンター業務等 | 大学院教務委員会 委員長 | 2021年4月～現在に至る | |
| 3 | 学生支援 | D's bar 顧問 | 2012年10月～現在に至る | |
| 4 | 大学広報活動 | オープンキャンパス 授業紹介 | 2013年4月～現在に至る | |
| 6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの） | | | | |
| | 受賞名 | 主催 | 受賞年月 | |
| 1 | 該当なし | | | |
| 7. 特許の取得 | | | | |
| | 特許名 | 特許番号 | 登録年月 | |
| 1 | 該当なし | | | |
| 8. 特記事項 | | | | |
| 1 | 該当なし | | | |